

「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業」*

同志社大学の取組

● 構想の概要

*「国際化拠点整備事業(グローバル30)」は、2011年度(H23)より「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業」として組み立てられました。

目的および英語コース開設構想

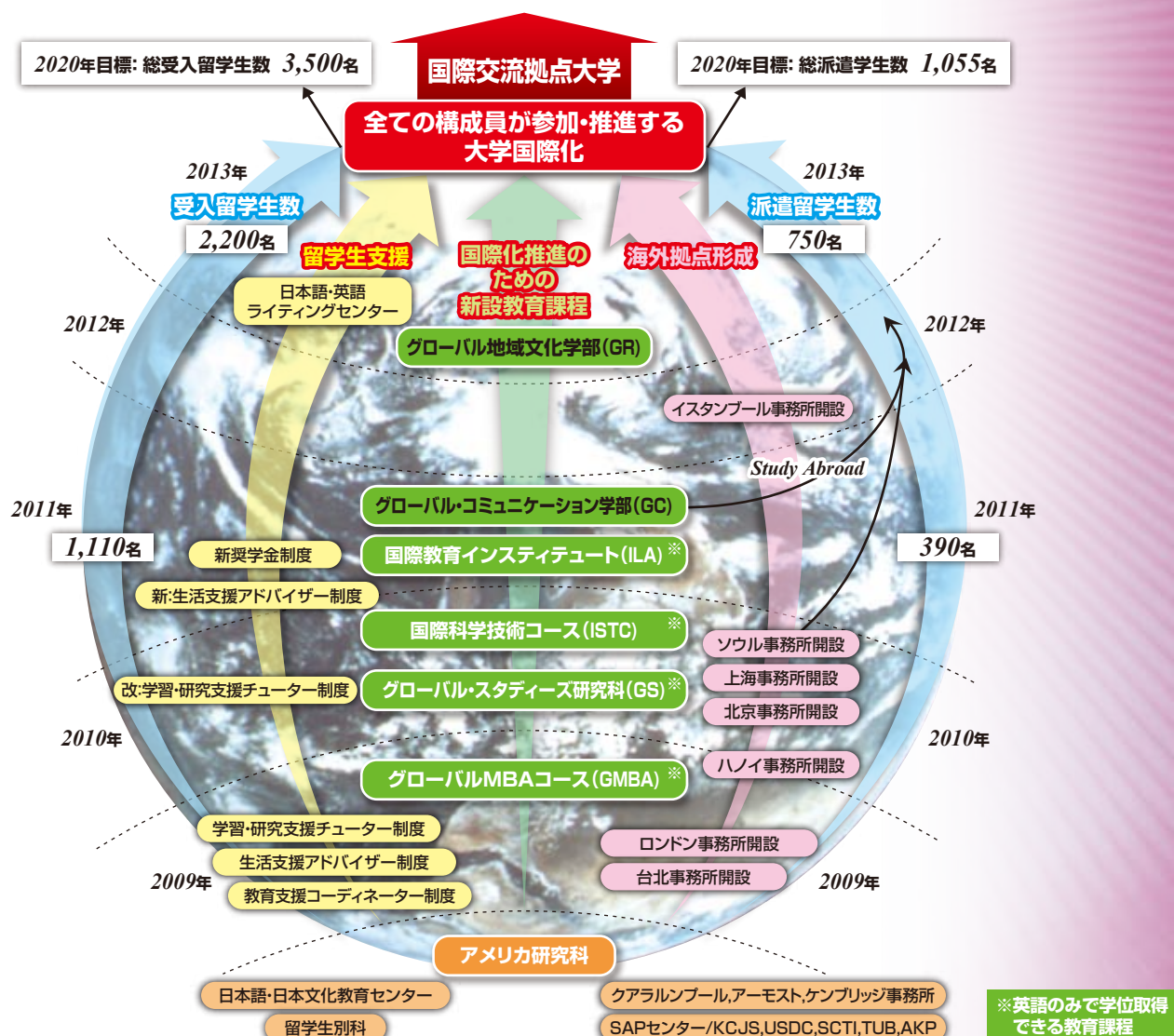
本学の教育理念の一つである「国際主義」の更なる現代的実質化を図り、同志社大学を、知と精神の国際的多様性を尊重し、global issuesの解明・解決に貢献する国際的教育研究拠点へと発展させることを目的として、本事業を実施する。具体的には、英語のみで学位が取得できるコースや留学生のための日本語コースを持った学部・大学院の開設等により国際化を推し進める。

2009年(H21)9月	専門職大学院	ビジネス研究科 グローバルMBAコース(GMBA)
2010年(H22)4月	大学院	グローバル・スタディーズ研究科(GS) アメリカ研究クラスター、グローバル社会研究クラスター
2010年(H22)9月	大学院	理工学研究科・生命医科学研究科 国際科学技術コース(ISTC)
2011年(H23)4月	学 部	国際教育インスティテュート(ILA) 国際教養コース
2011年(H23)4月	学 部	グローバル・コミュニケーション学部(GC) 日本語コース
2013年(H25)4月	学 部	グローバル地域文化学部(GR)

到達目標留学生数

既存の学部・大学院を含め、質の高い外国人留学生受入数および外国人数員数を積極的に増加させる。受入留学生数の到達目標数を、2013年(H25)までに2,200名(留学生比率7.7%)、2020年(H32)までには3,500名(同12%)とする。そのための環境整備として、海外協定校の新規開拓、留学生入学試験制度・実施体制の拡充整備を図り、留学生学習・研究支援チューター制度、生活支援アドバイザー制度等を新設、奨学金の充実、宿舎確保増も含めた留学生受入体制の整備充実を強力に推進する。

● 国際化拠点の概念図



中間評価

2011年度(H23)に文部科学省により実施された本事業中間評価において、同志社大学の取組が唯一最高ランク「S(優れた取組状況であり、事業目的の達成が見込まれる)」評価を獲得。

入学試験制度

入学試験の複数回実施、入学検定料の見直しに加え、外部語学能力試験の利用、現地入学試験の実施、高性能テレビ会議システム等を用いた面接の実施により渡日前入学を可能とし、海外からの出願者の利便性を格段に向上させた。

宿舎/留学生住宅総合補償制度

既存の寮に加えて借上げによる宿舎を拡充・整備。また2011年(H23)3月には、留学生が民間住居への入居契約を行う際に必要な連帯保証人を本学が担う「留学生住宅総合補償制度」を設置し、本学の宿舎以外へ入居する留学生への支援も充実させた。本制度開始以来、すでに239件の利用を数えている。

奨学金制度

2011年度(H23)に新たな授業料減免奨学金制度を導入。これにより全留学生への奨学金給付(給付率100%)を達成し、留学生への経済的支援をさらに充実させた。授業料の減免率は学部生が20~50%、大学院生が30~100%となる。

留学生受入体制の充実



ヘルスケア/カウンセリング

保健センターでの診療(内科)の他、2011年度(H23)には米国にてカウンセラー実績を有する臨床心理士による英語でのカウンセリングを開始し、心身の健康管理をサポートしている。

その他の体制整備

キャンパス内表示の多言語化、メディテーションルーム設置、学生食堂での英語メニューやハラルフード対応など、多様な文化背景を持つ学生の受入環境を整えている。また、東日本大震災発生時の留学生への対応・支援の経験をもとに、さらなる危機管理体制の整備を行った。

アドバイザー・チューターによる支援制度

2009年度(H21)から導入された「生活支援アドバイザー制度」は、修学および生活に関して留学生が抱える不安や問題の解消を目的とし、留学生の来日直後からのサポートを可能にしている。また、「留学生学習・研究支援チューター制度」は大学院に在籍する留学生を対象とし、留学生の専門分野における学習・研究成果の向上を図る。チューター制度の利用者は、2011年度(H23)で大学院留学生全体の約50%に上っている。

キャリア支援体制

留学生向けの就職支援パンフレットを多言語で作成、入学時から日本企業や日本での就職活動に係る情報提供を行い、留学生の就職に対する意識を喚起している。また、キャリアセンターにて高度な語学能力を有する専門のコーディネーターによる個別面談を実施する他、2011年度(H23)には「ビジネス日本語」等の各種講座を追加開発し、従来の就職ガイダンス、インターンシップ科目等の充実と共に入学から就職までのトータルサポートを強化している。

卒業生の就職体験談

就職活動の方法が分からなかった私は、ほぼ毎日のようにキャリアセンターを訪ね、履歴書の添削や面接対策などの指導を受けました。今私が勤めている就職情報会社を紹介してくれたのもキャリアセンターで、私と会社を結びつけ就職を強くサポートしてくれた大学には大変感謝しています。
外国人留学生第一号社員としての期待にプレッシャーも感じますが、今後はより多くの留学生に日本で就職することの魅力伝えていきたいと思っています。

(社会学部2010年度卒 中国出身)



独自性のある英語コースの開発・充実

2011年(H23)開設の国際教育インスティテュート(ILA)は、文・社会・法・経済・商・政策の6文系学部横断型の新しい教育組織である。日本の社会・文化・経済・ビジネス・法・政策・国際協力などの幅広い分野にわたって欧米型学際的教育を実践し、学生自身による選択自由度の高いカリキュラムが特徴となっている。2012年(H24)4月現在、9カ国から47名の学生が学んでいる。

また、大学院では2009年(H21)ビジネス研究科に「グローバルMBAコース」、2010年(H22)グローバル・スタディーズ研究科に「アメリカ研究クラスター」「グローバル社会研究クラスター」、理工学研究科および生命医科学研究科に「国際科学技術コース」が開設されており、2012年(H24)年4月現在、125名の留学生・日本人学生が在籍している。



留学生の声



ILAの多くの授業は、先生が一方向的に講義をされるのではなく、欧米の大学のように学生が自らテーマを見つけて調べたり考えたりすることが求められます。準備は大変ですが、このような授業によって生きた知識が身につくことを実感しています。

(ILA2年生 韓国出身)

● 国内外教育機関との交流・連携等の拡大

大学間学術交流協定等の促進

優秀な留学生の受入および日本人学生の海外派遣のため、教員が積極的に海外に赴き、交流協定校を開拓。語学要件に弾力性を持たせた協定大学を開拓し、留学しやすい環境を整えた。協定校数は、2009年(H21)と比較し2012年(H24)7月現在でおよそ2倍に増大している。

海外優秀高等学校との連携

海外の優秀な高校生獲得を目的に、2009年度(H21)より、積極的に海外の有力高等学校と指定校推薦入学制度に係る協定締結を進め、2012年(H24)7月現在、5カ国(韓国、中国(含:台湾)、ベトナム、フィリピン、オーストラリア)34校と協定を締結。2011年度(H22)、2012年度(H23)の2年間で44名の学生が本制度により入学している。

国内大学間ネットワークの推進

大学院設置の英語で授業を行う科目や留学生向け就業支援講座等を、協定大学や大学コンソーシアム京都加盟の他大学学生に開放している。また、大学間の連携強化のため、京都大学、大阪大学、立命館大学と本学の4大学でグローバル30関西地区連絡会を立ち上げ、共同でワークショップ、シンポジウム等を開催し、本事業での成果を広く国内の大学関係者や社会へ発信している。

ダブル・ディグリープログラム

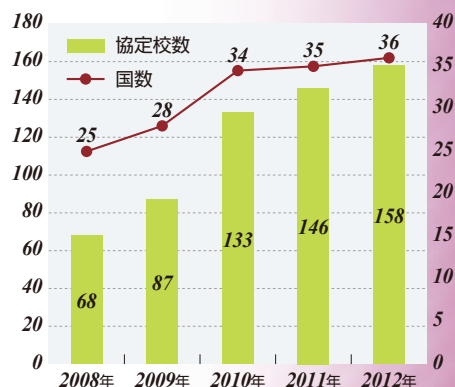
組織的海外派遣と学修体制の確保のため、海外有力校とのダブル・ディグリー等の共同プログラムを開発。既存のエコールセントラルグループとのダブル・ディグリープログラムに加え、2009年(H21)理工学研究科および生命医科学研究科がミラノ工科大学(イタリア)、ESPCI(フランス)と、2010年(H22)同研究科が西安電子科技大学(中国)と、2011年(H23)法学研究科がシェフィールド大学(イギリス)とのダブル・ディグリープログラムを開始している。

スタディーアブロードプログラム(SAP)

2006年(H18)より提供しているSAP「日本語・日本文化研修(サマー・セッション)」の他、2009年(H21)からは日本語・日本文化を学ぶ海外大学の学生を対象に、京都の歴史的・文化的資産を活かした半年から1年のプログラムを提供。また、個別大学のニーズに合わせた短期SAP等も数多く受入れている。なお本学キャンパスには、海外一流大学が日本語・日本教育研究拠点として開設した5つのセンター「AKP*1同志社留学センター(AKP)」 「チュービンゲン大学同志社日本語センター(TUB)」 「スタンフォード技術革新センター(SCTI)」 「京都アメリカ大学コンソーシアム(KCJS)*2」 「シェフィールド大学同志社センター(USDC)」が揃い、独自の日本プログラムを実施している。

*1アメリカに本部を置く日本留学プログラム運営機関Associated Kyoto Program。アーモスト大学、スミス大学等、16校の名門リベラルアーツカレッジが加盟する。

*2アメリカ14大学連盟の留学プログラム。コロンビア大学、ボストン大学、シカゴ大学、コーネル大学、エモリー大学、ハーバード大学、ペンシルヴァニア大学、プリンストン大学、スタンフォード大学、ワシントン大学、イエール大学、ミシガン大学、ヴァージニア大学が参加。

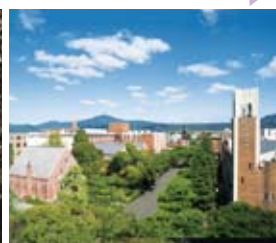


● 海外教育研究拠点の整備

多くの国際化推進の取組の迅速・効果的展開のため、海外の複数地域に海外事務所・教育研究拠点設置を目指す。既存の3拠点(マレーシア、アメリカ、イギリス(ケンブリッジ))、1事務所(台湾)に加え、2009年度(H21)にはイギリス(ロンドン)、ベトナム(ハノイ)に、2010年度(H22)には中国(北京・上海)、韓国(ソウル)に、2012年度(H24)にはトルコ(イスタンブール)に事務所を設置した。



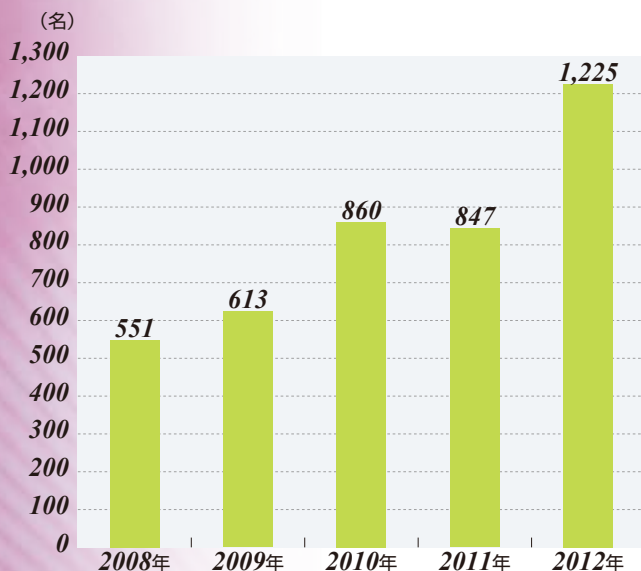
1875年 設立 → 1986年 京田辺キャンパス開校 → 2012年秋 烏丸キャンパス開校



2012年秋に今出川校地に良心館、志高館が完成。新校舎には、日本の大学では最大級のラーニング・コモンズが備わり、様々なセミナーやイベント、ワークショップを開催し、相互啓発が行える次代の学び空間とする。



在籍外国人留学生数の推移 (毎年5月1日現在*)



*留学生数には、2010年度(H22)より本学の外国人留学生定義による「留学生」の他に、国際教育インスティテュート、グローバルMBAコースに在籍する「留学生」、一般入試を経て入学した「留学生」を含む。

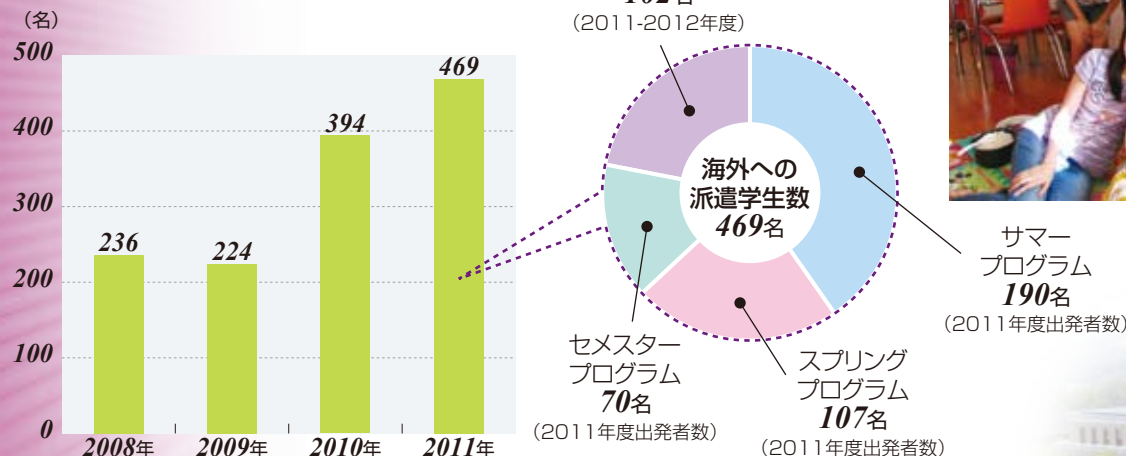
本学に関わる外国人学生数

本学では、大学のみならず「京都・日本」の国際化に向けて、正規留学プログラム以外の海外からの訪問も積極的に受入れている。数十名～数百名規模の海外中高等学校修学旅行・研修旅行、海外大学等教育機関からの超短期研修プログラム(訪問留学生受入プログラム)、キャンパス見学等の様々な形態での訪問ニーズに対し、多言語での模擬授業提供や大学説明会、本学留学生や日本人学生との交流会、宿舍手配支援等、可能な範囲での対応を行い、本学に関わる外国人学生数を増やすことで、世界における本学のプレゼンス向上を図る。なお、2012年度(H24)は7月末までに、訪問留学生受入プログラム5件84名、その他研修旅行等においては1,131名の訪問者を受入れている。



海外で学ぶ学生数の拡大 (派遣留学制度の充実)

学部・大学院生の積極的な海外への派遣を促進・支援する制度改革にも取り組み、2013年(H25)に750名、2020年(H32)に1055名の派遣を目指す。様々な形態での派遣として、既存の短期・中期語学プログラムも新たに複数開発し、2009年(H21)224名だった海外への派遣学生数も2011年度(H23)469名と増加した。



構想責任者



田端 信廣
[国際化推進室長]

同志社大学は「良心教育」を建学の精神とし、「キリスト教主義」「自由主義」「国際主義」を教育の基本理念に掲げ、137年の途を歩んできました。創立者新島襄の精神に則り、自由でのびやかな進取の気風に溢れ、「良心」に従って「考動する」グローバル人材を輩出することを目的とした本学の国際主義教育は、この度国際化拠点大学に選ばれたことを契機に、大きな飛躍の局面を迎えました。

大学院、学士課程での新たな「英語コース」の設置、異なった修学目的をもった多様な留学生の受入の拡大、学生交換協定を含む海外協定校の増大などの活動は着実に前進し、大きな成果を収めつつあります。多様なプログラムを利用した派遣留学生の数も着実に伸びています。

私たちの国際化拠点整備の構想の目指すところは、こうした留学生数や協定校数の拡大にとどまらず、それを通して本学の教育全体および研究のあり方において国際的スタンダードを実現し、本学を「世界の同志社大学」へと発展させることにあります。この目標の実現に向けて、私たちは全学をあげて取組を継続、強化していく所存です。

